

## 令和6年度第2回滋賀県職業能力開発審議会 概要

### 1 日時

令和6年11月19日（火）15時から17時まで

### 2 場所

滋賀県立高等技術専門校 米原校舎

### 3 出席委員

田邊、石水、中平、中野、和田孝、山田、和田光平、齋藤、伊藤、菱田、吉川、則本の各委員（敬称略、出席12名）

### 4 事務局

労働雇用政策課長 他4名

### 5 滋賀県立高等技術専門校

米原校舎副校長、草津校舎副校長

### 6 オブザーバー

県立高等技術専門校校長

（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構滋賀支部

滋賀職業能力開発促進センター 訓練課長

### 7 議事概要

（1）会長の選出について

（2）滋賀県の職業能力開発施策の概要について

（3）しが職業能力開発推進プランの実施状況について

（4）高等技術専門校（米原校舎）の視察

資料1～9により説明

## 【主な意見等】

### (1) 会長の選出について

#### 事務局

委員改選後初めての審議会であるので、会長の選出をお願いしたい。

#### 委員

前任期中に会長代理を務めていただいた、学識経験者委員の田邊委員に会長をお願いするのはいかがか。

(委員一同：異議なし)

#### 事務局

委員の皆様の総意により、田邊委員に会長に就任いただく。続いて、会長代理の選任をお願いしたい。

#### 会長

学識経験者委員の石水委員に会長代理をお願いしたい。

(委員一同：異議なし)

#### 事務局

石水委員に、会長代理をお願いする。

### (2) 滋賀県の職業能力開発施策の概要について

#### 委員

どれほど有益な訓練を実施しても、滋賀県内で需要と供給のバランスがとれていなければならぬ。また、再編については、時代の流れに合わせて見直していくことは大事だと考える。

10年～20年前は、職業訓練の受講希望者が定員を超え、面接において受講を懇願する人も多くいた。今では定員が充足せず、中止となっている訓練が多くある。

そんな中、介護の資格を取るために有料の講座に参加したところ、定員満員の受講生がいた。参加者に話を聞くと、無料で技術を身につけることができる職業訓練の存在を知らないという。ハローワークを利用する人に対して、訓練について簡単に説明されるが、より具体的に説明すべきと考える。

また、ハローワークを利用しない人に対してもどうすれば職業訓練の魅力を伝えることができる

か、ぜひ審議会の議題として扱ってほしい。

## 委員

これまでも、同様の内容については検討してきた。大切なことなので、今後も検討していきたい。

ものづくり体験教室についてはよい取組だと考える。子どもが体験している間に保護者に対して職業訓練や滋賀県立高等技術専門校（以下、「専門校」）の説明を行うことで、子どもが進学する際や自身が退職する際に訓練や専門校の存在について思い出していただけるのではないかと考える。参加人数はどれくらいか。

## 専門校

応募者については、昨年度は約 800 人で、今年度は約 500 人である。シューティングゲームの作成、木工でのマガジンスタンドの作成、サンドブラストを使ったガラスの模様づけ等を体験いただいている。

ものづくり体験には保護者にも同席いただき、子どもと保護者が協力して作業を進めていただく形をとっている。体験教室は盛況であった。

## 委員

それだけ集まっているなら、施設の利用を促進するようなPRの時間を設けていただければ有効と考える。

## 事務局

ものづくりの振興に加えて、地域にこういう施設があるということを知っていただくことも重要なので、PRの機会として活用していきたい。

### (3) しが職業能力開発推進プランの実施状況について

## 委員

マイクロソフトのオフィスであれば、コパイロットというものが付いていて、ワードであれば、目的や相手方等を入力すれば文章を作ってくれる。AIの今後の普及拡大や、敷居が低くなってきていることから、カリキュラムに導入することで興味を示す人が増えるかもしれない。

## 事務局

現時点では、AIを活用してというところまでは検討できていない。今後、例えば住宅リフォーム科において、お客様への提案資料や見積書等の作成については、まずAIを活用し、そこからどのように手を加えればより良いものになるか、という使い方まで含めた活用方法も検討していきたい。

委託訓練では、OA事務やデジタルにかかる訓練もあるので、そういった中で、新しい技術や分野の訓練ができるか、労働局との協議の場等において提案することを検討していきたい。

## 委員

若者を対象とした訓練については、若者が減少している中で、高校卒業後の進路の選択肢が増えており、専門校への入校につなげるのは難しいと考える。ものづくりが好きな若者は工業高校や大学に進学する中で、専門校の大きな利点は受講料の安さであると考え。例えば普通科の高校で、進学も就職もしない生徒を対象に、学校が進路として専門校を提案してくれる関係性を構築できれば、学卒者の入校生増加につながるのではないかと考える。

在職者を対象とした訓練については、特に中小企業においては、人材不足により新人を教育できないため、専門校がその役割を担うということを企業に対してPRすることが効果的だと考える。

求職者を対象とした訓練については、リスキリングを経て新たな職業に就きたい人に対して、専門校の存在をPRできれば良いと考える。また、専門校のインスタグラムについては、なぜ訓練科によってフォロワー数に大きな差があるのかわからないが、若者はあまりハローワークを利用しないことを考えると、こうしたインスタグラム等を活用して若者に対する広報を行えば良いと考える。

先日、ポリテクカレッジ滋賀で開催されたポリテクビジョン滋賀に行ったが、子ども連れの方が多かった。テクノカレッジでも、ものづくり体験教室などに力を入れて、子どもたちがものづくりに興味を持つように取り組んでほしい。

## 事務局

若者を対象とした訓練について、草津校舎の自動車整備科に関しては、同種の専門学校が県内になく、高校の授業料とほぼ同額で資格を取得でき、就職率も100%であるという点を高校に対してPRしていきたい。現在、専門校の校長がPRのために高校を回っているので、若手も含めてこうした取組を強化していきたい。

在職者を対象とした訓練について、企業においては、普通科高校を卒業した若者に対する指導が課題であるという声を多く聞くため、基礎部分を数日で訓練する在職者訓練の活用を、企業にPRしていきたい。

求職者を対象とした訓練について、さまざまな年齢の方が受講されるため、丁寧な就職支援を行ってほしい。

インスタグラムは、本来一つのアカウントの中に様々なコンテンツがある方が更新頻度も増え、見ていただく機会も増えると考えている。有効な活用方法について検討していきたい。

## 委員

仕事の現実をあまりわかっていない若者や、就職と離職を繰り返す若者を多く見てきた。学卒者が受講できる訓練は少ないが、高校に対して広報することは大変意義があると考え。

進路に行き詰まったときは、ハローワークや高校の就職窓口に相談するよう、進路担当者から生徒に伝えていただくことが大切であると考え。

## 委員

専門学校を卒業し、技術を身につけてしっかりと働いているという、ロールモデルとなる人の話を聞くことも効果的である。そうしたことも検討いただければと考える。

### (4) 高等技術専門学校（米原校舎）の視察

## 委員

大きな施設であるが、エアコン等が整備されていないところが見受けられた。夏場の訓練における実習場の環境が心配であるが、どのような対策をしているか。

## 専門学校

夏場は、実習場の気温が40度近くになり、外気温を超えることがある。対策としては、実習は午前中に終え、午後からはエアコンのある教室での座学にする、空調の効いた部屋で昼休憩をとる、水分補給の休憩をこまめにとるなどの対策をしている。

個人の対策としては、ファン付き作業服を着用する訓練生もいる。

## 委員

大きな機械もあるが、安全対策は十分か。

## 専門学校

安全対策として、訓練生に対しては、入校してすぐに安全教育を徹底して行う。また、機械操作は指導員が見本を見せてから訓練生に指導している。それでも、小さな怪我を負うことがあるが、その積み重ねが大きな事故につながるということは承知しているので、小さな怪我が起きた時点で、原因の究明を行いながら対策を講じている。

近年、大きな事故はなく、安全に訓練を実施している。

## 委員

現場では、最初に、整理・整頓・清掃の徹底や、地面にある印から外には出ないなどの教育をしっかり行うものである。専門学校においても、これらの教育を徹底されているのだと推測する。

また、夏場の環境について、溶接ではガスを使うため、実習場を換気せざるを得ず、空調を効かせられない。スポットクーラー等により対策を講じるほかない。

木造建築科等では、実習で何度も使ったことで、柱などの木材に穴がいくつも開いていた。訓練で作成したものを市や関係機関に寄贈や販売し、そのお金で新たな材料を購入すれば、常に綺麗な材料を使って実習ができていいのではないかと考えるが、いかがか。

## 事務局

毎年度、訓練の初めに、前年度の訓練生が作ったものを解体しながら構造の勉強をしている。また、そこで出た端材は、かんな掛け等の材料として再利用している。実習で作った大きなものを崩して新しいところに持っていくというのは難しいが、実習で出た端材を使って何か新しいものを作るなど、より有効な活用方法がないか検討していきたい。

## 委員

溶接関係の作業をする際、局所排気は行っているか。また、防塵マスクの検査が義務化されているが、実施しているか。

## 専門校

検査を行い、合格した防塵マスクを使用している。また、溶接関係の作業を行う際は、作業場の奥の排気設備により局所排気を行っている。

## 委員

専門校の指導員は、どのような経緯で指導員になっているのか。

## 事務局

様々な経歴の方がいる。指導のためには免許が必要となるため、企業で実務経験を積んだ上で、指導方法に関する試験を受けて合格された方や、職業能力開発総合大学校を卒業された方、他大学で関連する学科を修めて来られた方など様々である。

以上